

新斎苑都市計画決定に係る説明会①

■日時 : 平成29年1月29日(日) 14:00~16:00

■会場 : 飛鳥小学校体育館

■主催 : 奈良市

■出席者 : 市民:78名(うち報道関係者2名)
奈良市:19名(仲川市長、向井副市長、他関係職員)

■配布資料 : 奈良市新斎苑基本計画概要版、奈良市新斎苑の都市計画決定について

■概要 : 14:00~14:05 市長挨拶

14:05~14:30 事業説明

プロジェクター投影により市長が説明。現火葬場の現状及び死亡者数推移、計画地選定の経緯や理由、計画地位置及び周辺の概要、各種調査、新斎苑建築概要と事業費、スケジュールについて説明。

14:30~14:40 都市計画概要説明

プロジェクター投影により都市計画課長が説明。都市計画決定の目的、内容、位置、面積、理由及び今後の手続きについて説明。

14:40~16:00 質疑応答

参加者9名より受けた質問に対し、市長及び市職員が回答。

■質疑応答

① Q : 立坑を掘って地下水の観測を行うのに毎年どれくらいの管理費がかかるのか？

年寄りが歩いてスロープを登っているのに、市長は車を体育館の横に止めている。市長はそんなに偉いのか？

A : 地下水の管理は毎年実施するつもりで、年に数百万円程度がかかる。

② Q : 京都で育ち、神戸、大阪、和歌山にも住んでたが、3年前に奈良へ越してきた。大和高原で10年間住んでいたが、他と違って奈良の人は優しい。それから年を取って市街地へ越してきて3年になる。奈良は魅力のある都市であり、行政の人たちは日本中に町づくりを広めるべきである。敵とか味方とかではなく、古い行政から離れて良いようになっていると感じた。弱い人への愛情が必要である。行政の職員は優秀であるが、一つ足りないことがある。それは血の通いが感じられないことである。それでは市民はついていけない。

A : 貴重なご意見ありがとうございます。

③ Q : いったん決めたことはしっかりやってもらいたい。周辺の土地利用として、斎苑関連施設を計画したいと考えている。どのような規制があるのか。墓地はできないか。区画整理はなぜ行わないのか。規制を緩和してほしい。前向きに検討できるのか。

A : 火葬施設をつくることを核に、周辺整備も含めて雰囲気の良い空間をつくっていきたい。こ

ここでは墓地は法的に設置できないこととなっている。規制については各行政庁の判断となり、市だけの判断では難しい。

当該地は、市街化調整区域で一定のもの以外は建設できないが、宗教施設等は認められる可能性がある。考えられている計画をお持ちになれば判断させていただく。

④ Q : 明治とか八千代とかが調査を行っているが、欠点として、建設後の調査を行っていない。また、第三者評価で藤田先生は今後の監視が必要であるとか、釜井先生は特に問題ないといっているが、掘削盛土材を材料試験で確認することとあるが、駄目ならどうするのか。堤先生の評価では三百断層は国土地理院では推定活断層、文科省の地震調査研究推進本部では活断層といっている。安全の根拠がわからない。どうやって安全なのか考え方が全然示されていない。第三者評価で安全といえるのか。なぜ12月議会で安全といえる調査をあげないのか。

A : 建設後の予測は環境影響評価で行っている。また、地下水位の観測は盛土の部分に観測井を掘る。

建設前に予算を見積もっている。事前、工事中、事後に調査を行う。他の事例では実施していない事後調査を継続的に行っていく。これは行政の責任と考えている。

⑤ Q : 橋を作らないといけない位置に計画することが理解できない。実際に橋1本でつなぐ公共施設はあるのか。また、土砂災害警戒区域に隣接して計画しても大丈夫なのか。橋梁5億9200万円、道路工事8億4700万円という費用はどうなのか。国定公園内で地下一階を埋める計画であるが、東京の豊洲市場と同様のメンテナンス費用が掛かるのではないかと。平地で探した方が良いのではないかと。

A : 橋を進入路としている施設については、今すぐは分からないが、特別ではないと考えている。施設については調べる。奈良市内でいろいろな土地を探したが、まとまって必要となる面積があり、その他様々な条件を満たす場所は限られる。

⑥ Q : 先ほどから市長がおっしゃっている数百万円をわずかというが、我々の年金はその半分である。数百万円はわずかか。安全の言葉やコストがない。

A : 最小のコストで行うことは重要であるが、事業による還元も必要であるとする。安全性を担保しろという議会の言葉もある。一つずつ不安を払拭することが重要である。費用もなるべく少なめで、より良い方法で決断していく必要がある。

⑦ Q : 地元自治会から請願書がたくさん出ているのに市長はそれを無視している。災害リスクの多い土地であり、調査に異常があった場合に、対策を講じるためのお金が奈良市にあるのか。ダムの周りもいろいろ問題が起こっている。ランニングコストをどう考えているのか。将来の奈良市を考えてほしい。

A : どういう災害リスクがどの程度どういう形であるかを把握して対策を打つべきと考えている。新斎苑事業がリスクを大きくすることはないという意見を第三者評価でもらっている。市が責任を持って対策をし、モニタリングする。それは必要な費用と考える。

場所については、今まで連合会を通して、また我々自身が奈良市全体から探したが、なかなかより良い土地が見つからなかった。厳しい財政、限られた時間の中で何とか良い方法を探っ

ていきたい。

請願は議会で議論いただいている。懸案事項については、しっかりと議論を深めていきたい。

⑧ Q : 計画地が適地かどうか疑問である。安全性を確認したというが、含水層があつて地下水が供給されている場所もある。八阪神社の辺りに水が供給されているのではないか。本当に候補地を探したのか。少なくとも土地開発公社で 4ha の運動公園を予定していた土地は検討していないのか。中ノ川もある。議員が提案している郡山のクリーンセンターのあるところもある。そういったところで事業を行えば、10 億以上減る。そもそも特例債の期限を言っているが、もともと H27 でなくなる予定であった。東日本大震災で延長され、H32 に期限が延びた。市長に猶予ができた。

A : 電気探査の岩盤である片麻岩は水を通さない。礫岩は水を通す。電気探査の結果は水に反応しているが、ぬかるんでいるのではなく、含まれているので強度は落ちない。八阪神社へ流れているような水は流れておらず、岩井川の方へ流れている。

⑨ Q : お金がかかるのは市民に理解できない。建物の費用より他で金がかかっている。33 億は斜面に建てるのでかかっているのではないか。なぜ傾斜地に計画するのか。人口の密集地からすぐ離れている。この前は朝 -3℃になった。橋梁は凍る。勾配も 8%もある。コストは市民の税金に跳ね返る。危ないところに建てる事に反対である。

A : 費用は以前、44 億円であった。同じ場所に計画しているが、44 億円には調査費や消費税、用地費が入っていない。建築は設計するごとに金額は固まっていく。どこで建てても同じくらいの金額で、グレードの問題はあるが、10%足して 36 億くらいはかかる。橋の勾配は約 8%であるが、田原へ登っていく道が全て 8%で、より山間部はさらに勾配がきついところもある。

市の土地であれば別であるが、山間以外は用地費が相当高くなる。60 年間奈良市があらゆる所を探して見つからなかった。それぞれの土地に課題がある。検討の結果この場所となった。